

## 令和7年度 学校経営の全体構想

中津川市立坂本中学校

### 【第4次 岐阜県教育振興基本計画】

◆「ふるさと岐阜」で育んだ自信と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人

- ・自立力(主体的に学び、考え、行動する力)
- ・共生力(つながり、認め合い、支え合う力)
- ・創造力(よりよい未来を築いていく力)

### 【校訓】

「一意力行」

～するとよいことを判断し、よりよいものを求め、自ら行動を起こす～

### 【中津川市 教育の方針】

「よりよいひとりだち」

- ～ 生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成 ～
- ・機能する組織
  - ・面倒見のよい先生
  - ・身につくまで

### 【生徒の実態】

- ・前向きで落ち着いた学校生活を送ることができる。
- ・授業に落ち着いて取り組み、仲間と交流をする中で学力を高めていこうとする姿がある。主体性が高まるとよい。
- ・他者との関係づくりを苦手とする生徒がみられ、不登校傾向の生徒も多い。
- ・自己肯定感や自己有用感が低い。
- ・学び方がわからなかったり、家庭での学習習慣に弱さがあつたりする。

### 【学校の教育目標】

**自主** (自ら進んで行う生徒)  
**協力** (責任を果たす生徒)  
**創造** (鍛え合う生徒)

### 【職員の姿、指導姿勢】

- ・チームワークがある。どの職員も情熱があり、和を乱すなど投げやりな言動をとる職員はいない。
- ・組織で対応していこうとする意識が高く共通行動ができる。
- ・指導したことに対しては、見届けと評価を常に意識したい。
- ・温かさとしさ、導くと委ねることのバランス感のある指導を高めたい。
- ・不登校生徒を何とかしたい思いが強い。

## 【学校経営の信念】 自ら行動を起こし、自己の可能性を探究する生徒を育成する

### 【学校経営の3つの施策】

- 1 基礎・基本の定着を導く指導と生徒に委ね主体性を高める指導を心がけながら授業改善を続け、生徒の『**学びに向かう力**』を高める。
- 2 生徒の願いや想いを捉えるなど生徒理解に徹し、自己実現と社会参画を育む指導を続け、生徒の『**自己指導能力と自治力**』を高める。
- 3 自他の立場と生命を尊重し、人権意識と思いやりの心を高めながら人間関係形成を育てる指導を続け、生徒の『**協働力と耐性力**』を高める。

### 1『学びに向かう力』を高めます

指標:授業でわからない所を、自分から聞ける 90%

指標:平日の家庭学習を、1時間以上行っている 80%

#### (1)坂中授業スタンダードの定着

→聞き方、話し方の継続的な指導と評価

#### ◎(2)生徒の実態を捉えた授業改善の推進

→ゴールを明確にしたねらいと課題

→「わかった、できた」という喜びを生む工夫

→わからないこと、できないことの表出

→生徒が自ら行動を起こす時間(挙手発言や話し合い、交流や探求の時間など)の確保

#### (3)家庭学習の粘り強い指導と見届け

→学級担任と教科担任と連携した個々の家庭学習の見届け

### 2『自己指導能力と自治力』を高めます

指標:するとよいことを判断し、自ら行動している 80%

指標:新生坂本中3本柱を意識し、生活している 90%

#### ◎(1)判断力と行動力を育む指導の充実

→指導の切り込み口をもち、位置付け、価値付け、方向付けを大切に指導

→指導後の見届けと評価の継続化

#### ◎(2)願いや想いを表出する学級活動の充実

→位置付け、価値付け、方向付けを意識した指導

→自己表現と他者理解に伴う共感の場の確保

→行動の意味や直打ちを考えさせる指導

#### (3)生徒会活動の推進

→常時活動の充実による坂中ブランドづくり

→自治意識を育み、自主性と自発性の向上

### 3『協働力と耐性力』を高めます

指標:仲間の想いを捉え、つながって行動している 80%

指標:年間90日以上の不登校生徒数の半減

#### ◎(1)さらに親身になって取り組む不登校対応

→生徒の実態を把握した不登校対応

→積極的な働きかけと状況にあった改善

→個別支援体制の充実と教育相談力の向上

#### ◎(2)願いや想いを表出する学級活動の充実

→願いと想いを共有し呼応できる集団づくり

→自己表現と他者理解に伴う共感の場の確保

#### (3)特別支援教育の充実

→一人一人の教育的ニーズに応じた指導

#### (4)安全、安心、心地よい風土の醸成

→互いの個性や多様性を認め合う環境づくり

### 【基盤となる学校の構え】

#### □生徒の願いや想いを捉え、生徒指導体制の充実に努める

→「初動対応が遅い、見届けが甘い、継続性が弱い」指導から脱却する。心の調査や生活ノートを活用した生徒の状況把握に努める。

#### □生徒や保護者の願いや想いを捉え、教育相談体制の充実に努める。

→生徒や保護者からの「不安」を置き去りにし『不満、不信』の想いをもちこたない。生徒や保護者の不安をキャッチし、迅速かつ組織的に対応する。

#### □危機管理を意識し、安心、安全な環境整備に努める。

→優先順位は「安心・安全→人権→学力」という意識をもち、まずは安心・安全に生活できる環境を保持する。職員の情報連携、行動連携を進める。

#### □コミュニティ・スクールを意識した地域とともにある学校づくりに努める。

→地域の応援団としての学校運営協議会などとの連携を強化する。地域の方に学校を支えていただくとともに、地域活動への生徒参画も考える。

#### 《坂本中が目指す教師》→【チームワーク、ネットワーク、フットワーク、ハートワークのある職員集団】

【活気】『チーム坂中、全職員で!』

☆情報の共有と共通行動

☆校務分掌の自覚と責任

☆学び合い、鍛え合える職員集団づくり

【和気】『相手意識、心に届くまで』

☆共感的な教育相談姿勢

☆研ぎ澄まされた人権感覚

☆「くれた貯金」の推進

【覇気】『確かな指導、身につくまで』

☆定着の見届けと再指導

☆生徒につく、師弟同行

☆家庭や地域、関係機関との連携